



鳥取砂丘グランドデザイン



平成22年11月 1日 策 定 鳥取砂丘再生会議
令和 8年 1月16日 改 訂 鳥取砂丘未来会議



目 次

(項)

はじめに	1
------	---

第1章 鳥取砂丘について

1 鳥取砂丘の概要	1
2 鳥取砂丘の歴史	2
(1) 砂との戦い、文化財と国定公園の指定	2
(2) 昭和30年代から現在	3
(3) 「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」の制定と鳥取砂丘再生会議の設立、 そして鳥取砂丘未来会議へ改組	3

第2章 現状と取り巻く状況の変化等

1 現状	4
2 取り巻く状況の変化等	4
(1) 環境意識の高まり	4
(2) 観光動態の潮流	5
(3) 世界ジオパークネットワーク加盟による地域活性化の動き	5
(4) 大交流時代の到来	5

第3章 鳥取砂丘グランドデザイン

1 基本方針	6
2 鳥取砂丘の目指す姿	6
(1) 特別保護地区等中央エリア	8
(2) 鳥取砂丘 西側エリア	12
(3) 多鯰ヶ池エリア	14
(4) 鳥取砂丘 東側エリア	16
(5) 各エリア共通の取組	18

おわりに	19
------	----

はじめに

鳥取砂丘再生会議は平成 20 年（2008 年）10 月に制定された「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」を契機に鳥取砂丘の保全再生と適切な利活用に向け、県民との協働による取組を推進するため平成 21 年（2009 年）1 月に設置されました。

山陰海岸ジオパークの一角を占める「鳥取砂丘」のグランドデザインを策定するにあたり、鳥取砂丘再生会議は、これまで鳥取砂丘景観保全協議会と鳥取砂丘新発見伝実行委員会が取り組んできた各種の事業展開を継承しつつ、砂丘中心部は 100 年後にあっても昭和 30 年代の天然記念物指定及び国立公園指定当時のような「砂の動く生きている砂丘」を基本に考えています。

そして、県民の理解と協力の下に県民が愛着と親しみを共有することのできる「鳥取砂丘の残していきたい姿」をイメージし、県民の砂丘への想いの共通認識化を図るとともに、課題や問題点を多角的な視点から整理、検討し、鳥取砂丘の保全再生と適切な利活用の促進についてできることから取り組むこととしています。

なお、鳥取砂丘再生会議は平成 30 年（2018 年）に新たに砂丘の活動団体及び広域的団体（観光・経済）を仲間に加え鳥取砂丘未来会議に改組されグランドデザインの改訂に至り継承されています。



風紋は「砂の動く生きている砂丘」の象徴

第 1 章 鳥取砂丘について

1 鳥取砂丘の概要

山陰海岸国立公園は、京都府丹後半島基部の網野海岸から鳥取砂丘に至る延長約 75 km に及び、変化に富んだ海岸線を有しています。

この山陰海岸国立公園の西端に位置する鳥取砂丘は、鳥取県東部を流れる千代川の河口の両岸に発達している砂丘全体を指し、東西 16 km、南北 2.4 km の砂丘であり、明瞭な形の砂丘列の高低差（起伏）、すり鉢状の凹地、風の織りなす芸術、風紋や砂簾などが訪れる多くの観光客を魅了しています。



主に中国山地から千代川により運び出された砂が形成した砂浜から、風により内陸側に運ばれ堆積したことで砂丘が成されています。また、鳥取砂丘を歩くと、今から約 6 万年前に伯耆大山が大噴火を起

こし、その時の鳥取砂丘に降り積もった「大山倉吉軽石」が、地層として何ヵ所か観察されます。この地層を挟んで下位の「古砂丘」と上位の「新砂丘」に二分することができます。古砂丘は約 10 万年以前に形成されたものであり、鳥取砂丘は 10 万年以上もの歳月をかけて自然の営みにより形成された海岸砂丘です。

戦後に人々の生活のために植林された飛砂防備保安林の影響や外来植物の侵入等による草原化、さらには、海域からの砂の供給量の減少により、砂丘本来の美しい景観が損なわれるところとなり、サンドリサイクルやボランティア除草などの保全の取組により「砂の動く生きている砂丘」の復元は着実に進められ現在に至っています。

【鳥取砂丘の特徴と魅力】

- ・一望できる砂丘の広がり起伏（高低差）、いずれをとっても国内で他に類を見ない砂丘景観を呈している。
- ・スリバチと呼ばれる湾曲した砂の急斜面に囲まれた大小の凹地地形が発達。
- ・風と砂が織りなす風紋、砂簾などの様々な文様を形成。
- ・ひと風吹けば、まるで生き物のように砂が移動し、一期一会の表情を見せる砂丘。
- ・この厳しい自然環境の中で砂丘に適応した砂丘植物や動物が生育、棲息している。



風紋



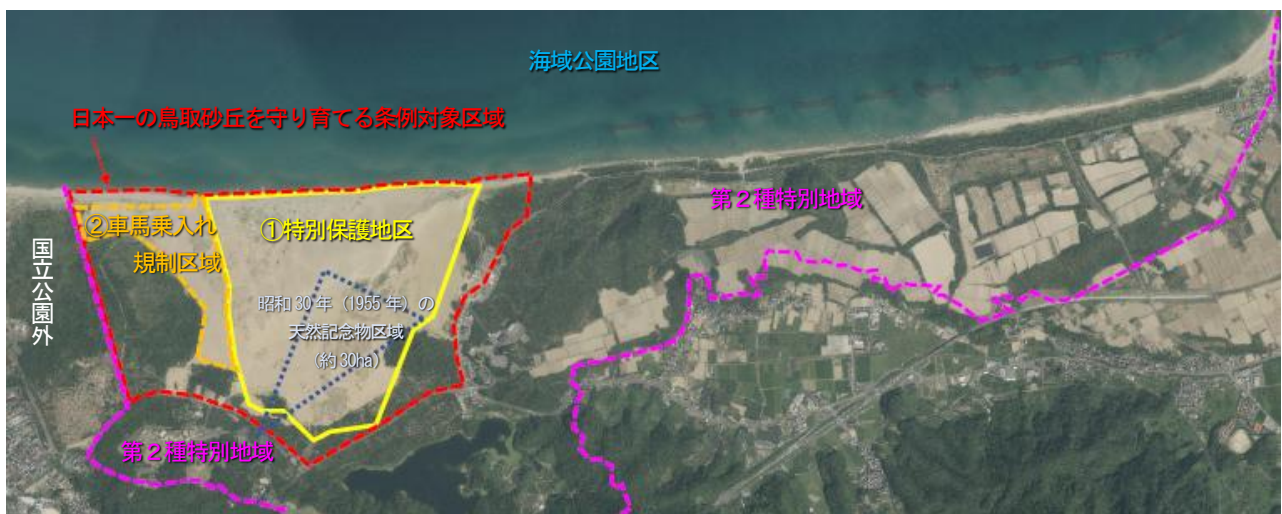
追後スリバチ

2 鳥取砂丘の歴史

(1) 砂との戦い、文化財と国定公園の指定

鳥取砂丘の中から、古くは縄文土器らしきものも発見されるなど、砂丘で人々が活動していたことが分かります。江戸時代からは、砂丘からの飛砂を防止するための植林が行われるようになりましたが、本格的な鳥取砂丘への植林事業が実施されたのは戦後になってからです。

昭和 20 年代には、砂丘一面を植林化する計画もありましたが、砂丘保護の機運が盛り上がり、追後スリバチ、長者ケ庭、合わせヶ谷スリバチを結ぶ三角地帯の約 30ha が昭和 30 年（1955 年）に国の天然記念物に指定され、植林化から免れるとともに植林されていない約 100ha の砂丘部分が、同年、山陰海岸国定公園に指定されました。その後、昭和 38 年（1963 年）に国立公園に昇格し、今では、砂丘中心部 131ha が特別保護地区として厳しい規制の下、大切に保護されています。



鳥取砂丘の現在の①特別保護地区及び②車馬乗入れ規制区域など（①＋②が天然記念物区域）

(2) 昭和30年代から現在

砂丘地周辺の飛砂防備保安林の成長と相まって、砂丘の砂の動きが変化してきました。また、本来、砂丘では見られない外来植物などが増加しました。砂の動きを促進させるため、昭和47・48年度(1972・1973年度)、57・58年度(1982・1983年度)の2回にわたり、西側保安林の伐採が行われました。

その跡地からは、その後の草原化の一つの起因となる雑草の種子が供給されることとなり、平成3年(1991年)頃には砂丘の約42%が緑で覆われる状況にまで深刻化しました。国や県、鳥取市、福部村(当時)で構成する鳥取砂丘管理調査協議会(後に鳥取砂丘景観保全協議会)では、平成3年(1991年)から試験除草を、平成6年(1994年)から本格的に除草活動を実施し、平成16年(2004年)からは県民や観光客との協働によりボランティア除草を開始し、令和6年(2024年)までに累計8万6千人を超える人々が、貴重な海浜の生態系(砂丘に生育する動植物)を尊重するとともに砂の動く生きている砂丘を守り育てる鳥取砂丘の保全再生活動に取り組んでいます。



ボランティア除草

(3) 「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」の制定と鳥取砂丘再生会議の設立、そして鳥取砂丘未来会議へ改組

県民参加による保全再生の取組が活発化している反面、砂丘利用者のマナーが低下し、特に鳥取砂丘の景観のシンボルである通称“馬の背”斜面に足跡で文字や図形を描く落書きが相次いで発生しました。

鳥取県が世界に誇れる至宝「鳥取砂丘」を後世に守り伝えていく上で大切なのは、砂丘利用者一人一人が鳥取砂丘の持つ独特の風物への愛着と畏敬の念を共有して節度ある利用に努めるとともに、協力し、連携し合って、自然を守り育てていくことです。



「馬の背」斜面への落書き

県民を始めとする全ての砂丘利用者が人々の協働により鳥取砂丘の保全と再生を推進し、適切な利用を増進することを通じて、その多面的価値の向上を図り、鳥取砂丘の優れた環境を次世代に確実に引き継いでいくため、県は「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」を制定し、平成21年(2009年)4月に施行しました。

その後、平成22年(2010年)10月に鳥取砂丘を含む山陰海岸が世界ジオパークに認定され世界的価値が認められたことや、平成26年(2014年)に鳥取砂丘の地先海域において海難死亡事故が発生したことに伴い、鳥取砂丘の利用を増進するための施策の一層の充実と適切な利用に繋げるため、県は平成27年(2015年)4月に条例の一部改正を行いました。

なお、この条例の制定を契機に鳥取砂丘に関わる関係団体、地元、行政等、幅広い参加の下に鳥取砂丘の保全再生と適切な利活用の促進に向けた取組を進めるため、鳥取砂丘再生会議が平成21年(2009年)1月に設立され、様々な人々との協働による取組の推進エンジンとして次の世代につなげる取組を実施し、平成30年(2018年)に新たに砂丘の活動団体及び広域的団体(観光・経済)を仲間に加え鳥取砂丘未来会議へと改組しました。

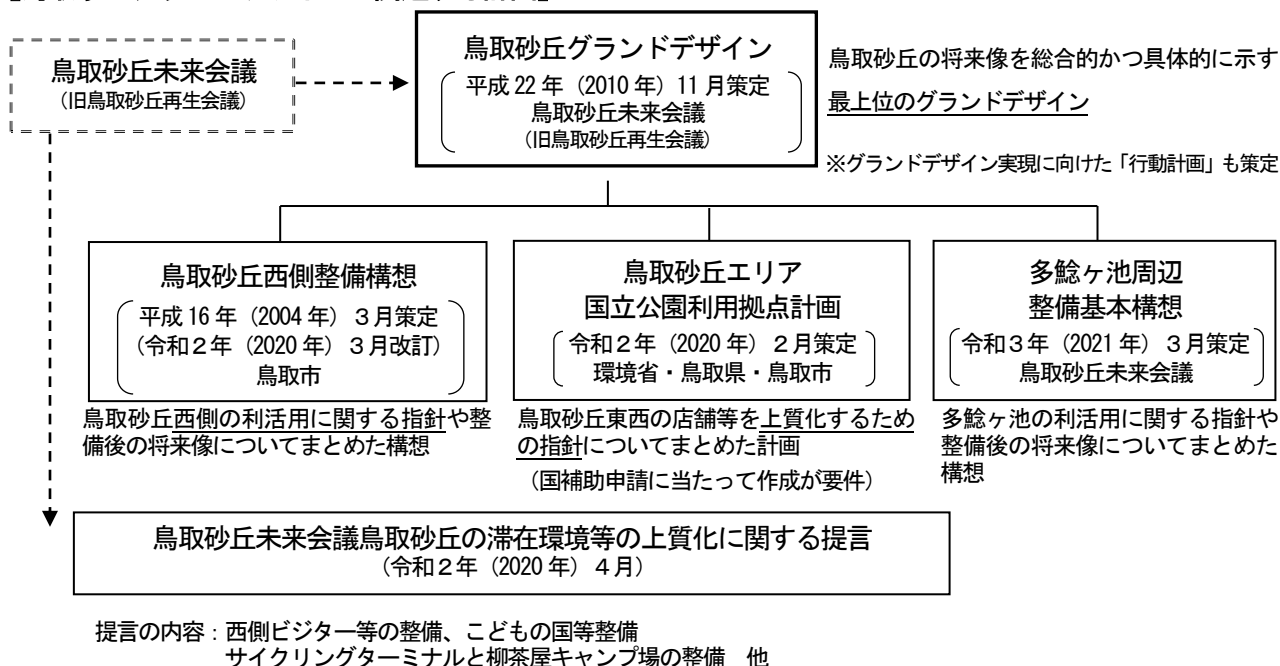
第2章 現状と取り巻く状況の変化等

1 現状

鳥取砂丘では、砂丘の保全再生と適切な利活用に向け、県民との協働による取組を推進する組織として地元・関係事業者、大学、行政で構成する「鳥取砂丘再生会議」（平成 21 年（2009 年）1 月設立）が発足し、100 年後を見据えた長期的な視点に立って「鳥取砂丘グランドデザイン」が平成 22 年（2010 年）11 月に策定され、ここで示された砂丘の将来像を目指して砂丘周辺の整備や様々な取組が進められてきました。

また、平成 30 年度（2018 年度）に改組・設置された鳥取砂丘未来会議での議論を踏まえ、令和 2 年（2020 年）から 3 年にかけて観光振興等に向けたエリアごとの構想・計画が策定・改訂され、これらの計画に基づいた施設整備もなされてきているところです。

【鳥取砂丘グランドデザインと関連する計画】



2 取り巻く状況の変化等

令和 2 年（2020 年）以降の新型コロナウイルス感染症により落ち込んでいた来訪者数は、アフターコロナにおいて回復基調にあり、インバウンド需要の拡大や個人旅行者の増加に加え、国際的な環境意識の高まりや体験型アクティビティ需要の増加など来訪者の形態やニーズにも変化が見られるようになってきています。

(1) 環境意識の高まり

外来植物の侵入、砂丘前面の海岸の浸食、県民・観光客等の環境に対する意識変化等、砂丘を取り巻く環境は大きく変化しています。県民との協働により平成 16 年（2004 年）に開始したボランティア除草は企業や団体などにその活動が広がりを見せており、これらの取組を継続・拡大していくことで、鳥取砂丘の景観の保全・再生に繋がっていくことが必要です。

また、次世代を担う子どもたちに自然保護についての学習・教育の場の提供や関わりを持たせていくことが必要であり、県内外の学校の授業や修学旅行などで鳥取砂丘を訪れていただき、ガイドツアーや各種アクティビティの体験、除草ボランティア等を通じて鳥取砂丘への理解を深め、魅力を発見してもらうことも重要です。



環境教育の提供
(鳥取砂丘フィールドハウス)

(2) 観光動態の潮流

かつての鳥取砂丘の観光は、団体観光客をメインとした通過型観光であり、「砂丘を見て馬の背に行って帰る」という観光客が多数派でした。近年の観光スタイルが旅行会社の企画旅行などの団体型観光から個人が旅行のプランを立てる個人型観光にシフトしていくなかで、砂丘来訪者もまた同様の傾向となっています。

個人旅行を中心とした観光ニーズの多様化に合わせ、砂丘周辺で行われている様々なアクティビティやガイドツアーの体制を拡充するとともに、宿泊や比較的長期の滞在を視野に入れたらっきょうや果樹等の農業体験等の体験メニューや地域住民とのふれあいといった交流型観光のツアー化など体験コンテンツの充実を図ることが必要です。

また、アフターコロナにおいて回復しているインバウンドへの対応としては、ガイドの育成や通信環境の整備などを推進することも大切です。



観光での活用

(3) 世界ジオパークネットワーク加盟による地域活性化の動き

山陰海岸国立公園を中心とした山陰海岸ジオパークの個性豊かな地形・地質の特徴、価値が認められ、平成22年(2010年)10月に世界ジオパークネットワークの加盟(平成27年(2015年)11月にユネスコの正式事業に決定)が実現し、以後、平成26年(2014年)、平成31年(2019年)、令和6年(2024年)に再認定されています。

鳥取市青谷町から京丹後市丹後町に繋がる山陰海岸ジオパークトレイルには、鳥取砂丘の多鯰ヶ池自然探勝路など砂丘周辺の歩道も組み込まれており、例年ジオウォークなどのイベントが開催されています。

また、砂丘東側に位置する山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンターでは、鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館や山陰海岸ジオパーク推進協議会と連携してイベントや企画展を開催したり、訪問する児童生徒へジオパークの魅力を紹介するなど、ジオパークの教育的機能も担っています。

今後も引き続き、地域資源を再認識する教育やジオツーリズムなどの地域社会の発展につなげていく多くの取組を、世界を視野に入れた取組へと進化させていく必要があります。



(4) 大交流時代の到来

鳥取自動車道、山陰自動車道及び山陰近畿自動車道の県内区間を含め高速道路網のミッシングリンクが解消されつつあり、近畿圏など県外との陸路での往来が一層しやすくなりました。また、アフターコロナにおいて米子空港を発着する国際定期路線やチャーター便は東アジアを中心に拡大する傾向が続いており、国内のインバウンド需要の回復傾向と併せて、今後も鳥取県への来訪者の拡大が期待されます。

また、今の状況を好機と捉え、空港や駅等からのアクセス手段の拡充や周辺観光地からの案内・誘導に力を注ぎ、効果的に鳥取砂丘へ多くの観光客を呼び込み、更に次の目的地に「繋ぐ」観光拠点として、鳥取市の観光の中心的な役割を果たすことが重要です。

第3章 鳥取砂丘グランドデザイン

1 基本方針

100年後を見据えた長期的な視点に立つて、これだけは残していきたい鳥取砂丘の中心部の姿、浜坂から岩戸までの異なる個性の4つのエリアの目標及び全てのエリアに共通する目標を提示するとともに、概ね10年程度の期間を想定し取組の方向づけを整理、提言し、これまでに砂丘を活かしたイベントの支援やビジターセンターの整備などを進めることで、鳥取砂丘を訪れる多くの人への魅力発信や受入れ環境の向上に繋げてきました。

このたび改訂した鳥取砂丘グランドデザインでは、先に述べた砂丘を取り巻く状況の変化等に対応しつつ、更なる取組の推進・検討を行うことにより、鳥取砂丘の一層の魅力向上を図り、「何度でも来なくなる砂丘」の実現を目指します。

2 鳥取砂丘の目指す姿

従前のグランドデザインでは、「鳥取砂丘の残していきたい姿」を『砂丘特有の風紋、起伏やスリバチ地形が維持され、自然のサイクルによる「砂の動く生きている砂丘」』とし、取組を進めてきましたが、従来の課題である鳥取砂丘の良好な景観形成を推進するためには、その景観を構成する豊かな自然環境や生態系を保全・再生することが不可欠です。様々な人間活動の場でもある砂丘では、自然環境に与える人為的な影響を排除することは困難であり、人間活動とのバランスを考慮し砂丘に生きる動植物の適切な保全や管理、持続的な除草の取組を推進していくことが大切です。このため、ボランティア除草等に参加する様々な人々との協働を進めるとともに、季節や一日の移り変わりも活かした環境学習やガイドツアーなど砂丘の魅力に触れる機会を創出し、自然への理解を深めることが必要となります。

また、グランドデザインに基づくこれまでの取組により、鳥取砂丘ビジターセンターや鳥取砂丘フィールドハウスといった砂丘東西の拠点施設や滞在型複合施設・ヤマタ鳥取砂丘ステーションの整備、新たな観光資源となる様々なアクティビティの誕生など、4つの各エリアにおける利用環境の改善や滞在環境の整備が進んでいます。今後はその整備された環境をより効果的に機能させるためのコンテンツ等の磨き上げやエリア間・施設間での連携強化といった体制整備等をより一層促進していくことにより来訪者の滞在時間拡大に繋げていくことが重要です。

加えて、関係機関が連携し鳥取砂丘及び周辺エリアの周遊や駐車場の確保、交通渋滞対策等に向けた環境の整備を行うことにより、交通の利便性向上や来訪者の新たな動線の創出を図り、周辺エリアを含めた活性化を図ることも大切な取組となります。

併せて、アフターコロナで回復しつつあるインバウンド需要に対応するために、多言語のインターネットサイト、デジタルガイドコンテンツ、案内標識や解説板、通訳ガイドなどの情報発信を充実させることで外国人旅行者への魅力発信強化や更なる来訪者獲得に繋げていくことが求められます。

今回改訂においては、将来に向かっての姿勢を明確にし、より発展的な目標とするため、目標の表現を「鳥取砂丘の目指す姿」と変えた上で『貴重な海辺の生態系を尊重し、みんなで守り、育てる「砂の動く生きている砂丘」』としました。

上記の課題を踏まえ、鳥取砂丘各エリアの取組の推進を図りながら、点ではなく、線や面の展開となるように各取組を連携させ、広がりを持たせることが求められます。

貴重な海辺の生態系を尊重し、みんなで守り、育てる「砂の動く生きている砂丘」

特別保護地区等中央エリア ～保全・再生と利用の好循環により砂丘の魅力発見に繋げるメインエリア～

■砂の動く砂丘の再生と砂にふれあう体験の創造

- ・砂の動く砂丘本来の姿を取り戻すため、重点的に除草を行う区域を選定し持続的な除草活動を行うことで、砂丘に生きる動植物などの生息環境を維持しつつ、アクティビティやガイドツアーなどの利活用につなげていく、持続可能な保全と利活用の好循環の創出
- ・自然の砂の動きと砂丘の成因の解明
- ・自然のサイクルを考慮した砂丘の育成と保全

■砂丘のもつ多様な価値、魅力の発信

- ・ジオサイトとしての保全と利活用
- ・保全再生の必要性を理解し、進んで活動する人材の育成

■砂丘景観の改善の推進

- ・砂丘の保全・再生と、人間活動とのバランスを考慮したうえで、適切な強度・手法での除草等を継続
- ・砂丘海岸の漂着ゴミは、ボランティア団体等と連携した持続的な取組を進めていく

共通課題

- 様々な人々の理解と協力のもと、鳥取砂丘の自然環境・生態系の保全・再生、良好な景観形成及びこれらに配慮した利活用
- 既存施設とアクティビティにおける体験コンテンツの磨き上げと連携強化
- 周遊性・滞在性の向上
- インバウンドを視野に入れた引き出しやすくなりやすい情報発信

鳥取砂丘西側エリア

～学びと遊びを通して鳥取砂丘を深く知る滞在型観光の拠点～

■砂丘の楽しさを体感しながら、歴史、文芸、環境を学ぶ取組を推進

- ・鳥取砂丘フィールドハウス、滞在型複合施設などの拠点施設の機能を活かしたガイドツアーやアクティビティなどの推進

■飛砂防備保安林のあり方の検討

- ・保安林機能を適切に保全しながら、景観改善を図るとともに、レクリエーション等への利活用を検討

多鯨ヶ池エリア

～廻り楽しみ、水に親しむ緑豊かな水公園～

■観光客に多鯨ヶ池をアピールする取組の推進

- ・多鯨ヶ池周辺の眺望及び景観改善・環境保全と人を呼び込む取組
- ・多鯨ヶ池エリアの新たな利活用方策の検討

■学術的な調査研究の取組による魅力向上

- ・特別保護地区と一体的な地学的解明
- ・多鯨ヶ池及び周辺の生態的な調査

鳥取砂丘東側エリア

～砂丘のメインエントランスと福部砂丘一帯の滞在・周遊促進エリア～

■自然景観と調和のとれた商業施設エリアの形成

■福部砂丘一帯の多様な資源を利活用した滞在性・周遊性を高める取組の推進

- ・らっきょう畑の眺望・景観の保全及び利活用
- ・民間活力等によるオアシス広場、砂丘東側唯一の日帰り温泉・温水プール、奥行きのある砂浜等の利活用



(1) 特別保護地区等中央エリア

保全・再生と利用の好循環により砂丘の魅力発見に繋げるメインエリア

鳥取砂丘の保全・再生及びその利用においては、鳥取砂丘の固有環境の貴重さを理解し保護することに加え、砂丘の利用が固有環境へ悪影響を及ぼすことがあるということだけでなく、経済・文化等の面で地域の発展に寄与する点を考慮することが重要であり、このことは、平成20年（2008年）に制定された「日本一の鳥取砂丘を守り育てる条例」の基本理念にも位置づけられています。

特別保護地区等中央エリアは、鳥取県を代表する自然観光資源であり、観光に加え学校や企業等の環境教育の場としての利活用を推進し、鳥取県の関係人口の増加に繋げていきます。

また、保護と利用のバランスを考慮し、ボランティア除草などの持続的な取組を推進するとともに、ガイドツアーや様々なアクティビティの機会を創出し、砂丘の魅力の再発見や新たな誘客に繋げていくことを目指します。



東側上空から撮影した特別保護地区等中央エリア

(現状と課題)

- ・近年、海域からの砂の供給量が減少し、周辺保安林の成長と相まって砂の移動量が減少して外来植物が繁茂するなど、砂丘を取り巻く環境はここ半世紀の間に大きく変容してきています。
- ・昭和30年（1955年）の国の天然記念物指定理由にある鳥取砂丘の有する価値を次の世代に継承していく取組が必要です。
 - ア 国内に多数存在する海岸砂丘の中でもっとも起伏が大
 - イ 「スリパチ」と呼ばれる内陸砂丘の大小の凹地地形が発達
 - ウ 「スリパチ」の底には自然発生の植物群落あるいは湧水
 - エ 風と砂が織りなす「風紋」「砂簾」を形成。生き物のように流動する砂丘生態
 - オ 鳥取砂丘の有する地質構造。地質学的歴史を探究できる学術的価値
 - カ 砂丘に適応した種々の特性を有する砂地植物（砂丘植物）、昆虫などが棲息
 - キ 自然的砂丘と人とのかかわりを実験できる先史的遺物、防砂施設が存在
- ・日常生活、観光産業と飛砂防備保安林の機能保全とのバランスを考慮しながら、検討していくことが必要です。
- ・飛砂防備保安林を整備する治山事業などは人間生活に必要である一方で、砂丘における外来植物の繁茂などの一因となっているため、人間の手により適切な水準で影響をコントロールすることで自然な状態により近づけた保全を行っていくことが求められています。
- ・関連法令を遵守のうえ、多くのアクティビティが活動エリアとしており、砂丘の新たな魅力となっています。
- ・鳥取砂丘の海岸線に漂着ゴミ（プラスチック、漁具等）が打ち寄せられ、砂丘の景観や浜辺の環境が悪化している。

(取組の方向性)

- ① 砂が動く砂丘を再生するとともに砂とふれあう体験を創造します。
 - ・砂の動く砂丘本来の姿を取り戻すため、重点的に除草を行う区域を選定し持続的な除草活動を行うことで、砂丘に生きる動植物などの生息環境を維持しつつ、アクティビティやガイドツアーなどの利活用につなげていく、持続可能な保全と利活用の好循環を創出していきます。
 - ・自然の砂の動きと砂丘の成因を解明します。
 - ・自然のサイクルを考慮した砂丘の育成と保全に取り組めます。
- ② 「砂丘のもつ多様な価値、魅力」をしっかりと伝えていきます。
 - ・ジオサイトとしての保全と利活用に取り組めます。
 - ・保全再生の必要性を理解し、進んで活動する人材を育てます。
- ③ 砂丘景観の改善を進めます。
 - ・砂丘の保全・再生と、周辺の日常生活や観光産業に与える影響、飛砂防備保安林のあり方など、人間活動とのバランスを考慮しながら、慎重に取り組んでいきます。
 - ・砂丘海岸の漂着ゴミは、官民一体で年2回の定期的な一斉清掃活動を実施していますが、ボランティア団体等と連携した持続的な取組を進めていきます。

○特別保護地区等中央エリアの主要ポイント



砂丘のメインエリア



追後スリパチ



長者ヶ庭



馬の背とオアシス(夏)



馬の背とオアシス(冬)



サンドボード



ボランティア除草



小学生を対象とした砂丘散策
(環境教育の場)



パラグライダー



ヨガ



ファットバイク

(このほかにも様々なアクティビティのコンテンツが提供されている)



風紋



砂簾



砂柱



コウボウムギ



ハマヒルガオ



ハマボウフウ



ネコノシタ



ハマベノギク



ハマウツボ



イソコモリグモ



クロコウスバカゲロウ(幼虫)



エリザハンミョウ



ノウサギ



トノサマガエル



キツネの足あと

【除草活動の意義】

鳥取砂丘では、戦後の食糧増産等の施策や飛砂被害の防止のため周辺に防砂林の整備を行ったことが起因となって砂の移動が減少しています。また、治山・砂防・治水工事・高度経済成長期に盛んに行われた川砂利採取により、川からの砂の供給も減少しており、これらが砂丘の草原化の一因だと言われています。ただし、このような施策は人間活動を維持するうえで必要不可欠なものであり、砂の動く生きている砂丘を維持していくためには、継続的に除草活動を行う必要があります。

除草活動は、県・市が(一財)自然公園財団に委託して通年で実施している除草をはじめ、多くの県民等の参加するボランティア除草、企業・団体・個人が一定の区域を里親のように責任を持って除草するアダプト除草、未来会議が外注して実施する機械・人力除草など、さまざまな主体や方法により行っています。

また、砂の供給に関しては、サンドリサイクル（港湾に溜まった土砂を浚渫して船で運搬し、鳥取砂丘沖に投入）をモニタリングしながら継続実施しています。



除草の様子



サンドリサイクルの様子

【除草した草の利活用】

鳥取砂丘ではチガヤなどの雑草が毎年7～8トンほど除草され焼却処分されており、処分方法が課題となっていました。県内高校の生徒からの提案をヒントに、除草されたチガヤ（砂丘の外来草）を原料として因州和紙の伝統技法で作られた「レターセット」や地元イラストレーターとコラボした「絵はがき」が誕生しました。

これらは、チガヤ以外の雑草も使って製品化した「鳥取砂丘のエコ堆肥」とともに、鳥取砂丘の除草ボランティア参加者への返礼品として利活用されているほか、鳥取砂丘ビジターセンターでお土産品として販売されています。さらにとっとりふるさと大使のサンド&アローラサンドとのコラボによる絵はがきの商品化も始まり、令和6年度（2024年度）から除草した草の全てが再利用されています。

これらの試みは、廃棄予定であったものに手を加え、価値を付加して新しい製品へと生まれ変わらせる『アップサイクル』の取組として環境学習への利活用が期待されています。



レターセット



エコ堆肥



砂丘に繁茂するチガヤ



絵はがき

ポケモン ロール Acts
© Pokémon, © Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。

【鳥取砂丘の調査杭】

鳥取砂丘内には、一部を除き 100m間隔で木製の調査杭が設置されており、この杭に記載してあるアルファベットと数字の組み合わせから、砂丘内のどの位置にいるか把握することが可能です。

起伏のある砂の風景のなかでの位置確認を可能にしているこの調査杭は、調査研究、ガイドツアー等だけでなく、鳥取砂丘レンジャーの巡視、ボランティア除草の区域確認、砂丘内で発生した熱中症患者等への即時対応などにおいても、大いに役立てられています。



調査杭



調査杭の配置

(2) 鳥取砂丘西側エリア

学びと遊びを通して鳥取砂丘を深く知る滞在型観光の拠点

鳥取砂丘西側エリアは、砂丘本来の自然や風景の魅力が残っており、その眺望が古くから多くの文化人を魅了し、当該エリアに多くある歌碑がその足跡を今日に伝えています。

令和5年（2023年）4月に砂丘東側のビジターセンターの分館として山陰海岸国立公園鳥取砂丘フィールドハウスがオープンし、環境教育支援のほか砂丘散策やアクティビティの拠点としての役割が期待されています。

また、「アイエム電子鳥取砂丘こどもの国」、ゴルフ場などの既存施設に加え、令和4年（2022年）5月にワーケーション等の複合施設 SANDBOX TOTTORI が、令和6年（2024年）4月にグランピング、キャンプ及びゲストハウスを有する滞在型複合施設・ヤマタ鳥取砂丘ステーションが新たにオープンし、今後、高級リゾートホテル開業も予定されているなど、ファミリー層や富裕層など多様な客層をターゲットにした滞在環境整備が進んでいます。

加えて、国際的な乾燥地研究を行う鳥取大学乾燥地研究センター（アリドドーム）や企業・研究者が月面環境を想定した実証実験に活用できる鳥取砂丘月面実証フィールド「ルナテラス」など、砂丘の固有環境を活かした研究拠点が立地しており、これら施設の見学や公開イベントなども開催されています。

これら充実した資源の利活用や施設間、アクティビティ等の多様な体験コンテンツとの連携した取組を推進し、多様な客層が訪れ、連泊しながら、砂丘やその周辺の魅力に触れ、楽しめる滞在型観光の拠点を目指します。



鳥取砂丘フィールドハウス付近上空から撮影した鳥取砂丘西側エリア

(現状と課題)

- ・山陰海岸国立公園の西端部に位置するエリア。古くは但馬往来の玄関口に位置し、陸軍演習地、旧砲台、有島武郎歌碑、鳥取大学乾燥地研究センター（アリドドーム）の砂漠化防止・緑化研究など、歴史、文芸、環境学習の資源が数多く集積しており、自転車道で結ばれています。
- ・次世代を担う子どもたちが、砂丘にもっと身近に慣れ親しむことのできる公園、自然体験エリア、関わりを深めていくエリアとして利活用していくことが必要です。
- ・しかしながら、地元の子どもたちが遠足などで砂丘に足を運ぶ機会が減少、砂丘の広がり感・楽しみの享受、各種資源の奥深さが十分周知、利活用されていません。
- ・また砂の上だけでなく大きく広がる飛砂防備保安林の機能保全も必要ですが、その管理が十分行き届かない状況にあります。
- ・自然文化解説機能や環境教育支援機能等を持つ山陰海岸国立公園鳥取砂丘フィールドハウスが令和5年（2023年）4月にオープンし、砂丘西側の新たな玄関口として運営されています。
- ・総合案内機能を有する西側の新拠点として、グランピング、キャンプ及びゲストハウスを有する滞在型複合施設・ヤマタ鳥取砂丘ステーションが令和6年（2024年）4月にオープンしました。
- ・リゾートホテルの開業が予定されており、主にインバウンドを対象とした滞在型利用拠点として他のエリアとの連携が期待されます。

(取組の方向性)

- ①砂丘の楽しさを体感しながら、地域資源（文学的、歴史的資源）を学ぶ取組を進めます。
 - ・地域資源を発掘・整理し、学校や教育機関と連携して砂丘を楽しむ機会や場の提供を進めます。
- ②アクティビティ等の体験や環境・自然学習を連携させた取組を進めます。
 - ・フィールドハウスを拠点とした環境・自然学習と周辺施設やアクティビティ等と連携した取組を進めます。
- ③砂丘の固有環境を活かした研究拠点との連携を進めます。
 - ・乾燥地研究センターやルナテラスと連携し、砂丘を利活用した研究の意義の理解を深める取組を進めます。
- ④飛砂防備保安林のあり方を検討していきます。
 - ・砂の動く砂丘や、景観・眺望の観点から保安林のあり方を検討します。
 - ・レクリエーション等への保安林の活用方策について検討します。

○鳥取砂丘西側エリアの主要ポイント



鳥取砂丘フィールドハウス



ヤマタ鳥取砂丘ステーション
(滞在型複合施設)



アイエム電子鳥取砂丘こどもの国



SANDBOX TOTTORI



鳥取大学乾燥地研究センター
(アリドドーム)



セグウェイ体験



ルナテラス



有島武郎の歌碑



与謝野晶子佗涙の地の歌碑

(3) 多鯰ヶ池エリア

廻り楽しみ、水に親しむ緑豊かな水公園

多鯰ヶ池は、形成過程や周辺の動植物の生態など未解明な部分が多く神秘のベールに包まれています。

近年は、カヤックやSUPといったアクティビティ、手作りいかだレースなどの地域活性化の取組など池の水面や水辺を活かした利活用が展開されています。また、多鯰ヶ池自然探勝路の改修や水辺における木道や東屋、駐車場等の整備などが進められており、多鯰ヶ池周辺を散策できる環境の整備が進められています。

当該エリアは、のんびり・ゆったりと水に親しむことのできる砂丘のオアシスですが、来訪者からの認知度はまだまだ発展途上です。砂丘の東側と西側の結節点に位置しており、砂丘の他のエリアには無い湖の環境を活かしたここならではのアクティビティ等の展開により新たな観光動線を生み出す可能性を秘めています。

また、スイレンの生育範囲の拡大により、水質や湖面アクティビティに影響が出る場合もあることから、利用と保全のバランスを踏まえた水環境の維持を図りながら、新たな利活用を検討し、更なる魅力向上・来訪者の獲得に繋がります。



多鯰ヶ池のスイレン(6～7月頃)



南側上空から撮影した多鯰ヶ池エリア

(現状と課題)

- ・ 生きている砂丘と好対照をなす静かなエリアですが、多鯰ヶ池での地域活性化の取組などの認知度は発展途上であるため、砂丘の他のエリアにはない緑豊かな水公園を活かしたここならではのアクティビティや散策等をアピールする工夫が必要です。
- ・ 池の水面を活用したアクティビティが複数あり、新たな魅力となっています。
- ・ 池の周りの保安林等を適切に管理し、周辺からの眺望を確保する必要があります。
- ・ 多鯰ヶ池は、砂丘と絶妙のコントラストを描き、古砂丘や火山灰地層によって塞がれた堰止湖として貴重な資源ですが、未解明な部分が多く、学術的調査研究が急務です。
- ・ スイレン(外来種)の生育範囲の拡大により、水質の悪化や湖面アクティビティへの影響が懸念されています。

(取組の方向性)

- ① 観光客に多鯰ヶ池をアピールする取組を行います。
 - ・ 多鯰ヶ池周辺の眺望及び景観改善・環境保全と人呼び込む取組を行います。
 - ・ 多鯰ヶ池エリアの新たな利活用方策の検討を進めます。
- ② 学術的な調査研究に取り組み、魅力を高めます。
 - ・ 特別保護地区等中央エリアと一体として地学的な解明に取り組みます。
 - ・ 多鯰ヶ池及び周辺の生態的な調査に取り組みます。

○多鯰ヶ池エリアの主要ポイント



多鯰ヶ池弁天堂(お種弁天)



多鯰ヶ池湖畔で整備が進む木道



多鯰ヶ池自然探勝路



カヤック



サップヨガ



手作りいかだレース(地元主催イベント時)



水上自転車レース(地元主催イベント時)

(4) 鳥取砂丘東側エリア

砂丘のメインエントランスと福部砂丘一帯の滞在・周遊促進エリア

鳥取砂丘東側エリアは、鳥取砂丘のメインエントランスであり、最も来訪者の多いエリアです。

平成24年（2012年）に開館した世界初の砂像展示施設『砂の美術館』や平成30年（2018年）10月に総合案内施設として開館した山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンターが立地し、特別保護地区等中央エリアへのアクセスも良く、土産物店や飲食店が多く、また、砂丘の環境を活かした多様なアクティビティが展開されている一日中楽しめるエリアです。

さらに、エリアの東側の福部砂丘一帯は、らっきょう畑、オアシス広場、砂丘東側唯一の温泉・温水プール、奥行きのある砂浜など多様な環境を有しており、らっきょうの花畑散策や梨狩り街道での収穫体験、オアシス広場や砂浜での多様なイベント展開、海岸と近傍の温泉・温水プール施設等の立地を生かした海岸アクティビティ等の展開など幅広い可能性をもっています。

令和6年度（2024年度）には、簡易宿泊所機能をもつ新たなアウトドア複合施設が民間主導でオープンするなど、地域の観光・交流の新たな動きが見られているところであり、充実した資源を活かし、地域や来訪者のニーズに合わせた取組の検討を進めます。



砂の美術館付近上空から撮影した鳥取砂丘東側エリア

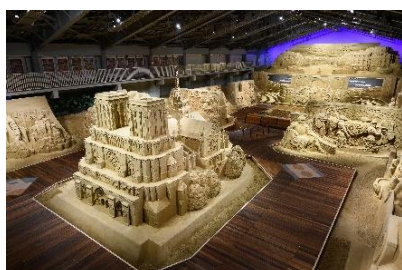
(現状と課題)

- ・休廃業や経年劣化した宿舍、店舗などが散見され、また、広告物や自動販売機に色彩の際立ち、乱雑な配置が見られるなど、鳥取砂丘本来の魅力的な自然景観や歴史的な風致に対して、統一感のない印象を与えるまちなみとなっています。また、標識や広告物等の多言語化は施設間で差が見られるなど、国立公園の受け入れ環境として更なる上質化を図ることが必要です。
- ・エリアの東側には優れた景観があり、多様な施設が充実しつつあります。また、国道9号颯山バイパス供用により鳥取砂丘へのアクセス性が高まっていることから、周辺環境の変化を踏まえた新たな価値観により地域資源の磨き上げや取組の創出が必要です。
- ・らっきょう畑、オアシス広場、広い砂浜など、それぞれの魅力に関連づけた楽しみ方、受入れ体制が発展途上にあります。
- ・来訪者のニーズを的確に捉え、国立公園にふさわしい風格・雰囲気、満足度、砂丘を中心として滞在性・周遊性を高める付加価値の高いアクティビティ等の体験コンテンツを充実させ、多様な魅力を提供することが必要です。

(取組の方向性)

- ①自然景観と調和のとれた商業施設エリアの形成に取り組みます。
- ②鳥取砂丘のメインエントランスに相応しい多言語対応などユニバーサルデザインに配慮した取組を進めます。
- ③「砂丘のもつ多様な価値、楽しみ方」をしっかりと伝えていきます。
- ④地域の素材を活かした取組を進めます。
- ⑤らっきょう畑の眺望、景観を保全しながら、利活用を図ります。
- ⑥充実した機能を活かし、オアシス広場や海水浴場等のエリア内の資源の連携により、ビーチスポーツ、マリナクティビティ、集客イベントなどの滞在性・周遊性をさらに高める取組を進めます。

○鳥取砂丘東側エリアの主要ポイント



砂の美術館



鳥取砂丘ビジターセンター



砂丘の商店街



広大な砂丘地に広がるらっきょう畑



オアシス広場を活用したイベント
(日本伐木チャンピオンシップ in 鳥取)



砂丘温泉ふれあい会館



岩戸海岸



いさりび広場・サンセットロード



奥行きのある砂浜を活かした
ビーチスポーツ

(5) 各エリア共通の取組事例

○鳥取砂丘とトレイルツーリズム・サイクルツーリズム

近年の新たな動きとして、徒歩や自転車を活用した観光であるトレイルツーリズムやサイクルツーリズムが注目されています。

「トレイル」は、歩くための道。鳥取砂丘周辺には、豊かな自然や歴史・文化とふれあい、心身ともにリフレッシュし、自然保護に対する理解を深めることを目的とした「中国自然歩道」が指定されているほか、「山陰海岸ジオパークトレイル」のコースが設定されており、多鯨ヶ池や砂丘の眺望が素晴らしい自然探勝路や砂丘のど真ん中を歩き、砂と風による奇跡の造形美である鳥取砂丘を全身で体感することができます。

また、県内を東西に横断するサイクリングルートとして令和2年(2020年)3月22日に全線開通した「鳥取うみなみロード(とっとり横断サイクリングルート)」にも鳥取砂丘周辺がコース選定されており、鳥取砂丘や岩戸海岸など美しい日本海を間近に、自転車ならではの爽快な海風を肌に感じることができます。

鳥取砂丘での観光は、観光バスや自動車で砂丘を訪れて砂丘のメインエリアを歩いて帰ることが一般的でしたが、徒歩や自転車で砂丘周辺をゆっくりと過ごす観光スタイルは、国立公園でありユネスコ世界ジオパークでもある鳥取砂丘の豊かな自然との親和性が特に高く、砂丘、日本海、白砂青松、らっきょう畑など様々な優れた景観を存分に味わうことができます。

加えて、徒歩や自転車による新たな観光客の動線は、利活用がこれまで発展途上であった多鯨ヶ池や岩戸海岸周辺などでも新たな価値を生み出していく可能性があり、受け入れ環境の上質化の取組と併せて進めることで新たな地域創生へと繋がることが期待されます。



大自然を感じる山陰海岸ジオウオーク



格別の疾走感がある砂丘周辺でのサイクリング



砂丘周辺における主要なトレイルルート(自然歩道)及びサイクリングルート

○民間活力による新たな魅力発信

鳥取砂丘未来会議では、鳥取砂丘の新たな魅力や楽しみ方を広く情報発信するため、鳥取砂丘の自然や特色を活かした様々なイベントを『「日本一のすなば」魅力まるごと事業』として令和2年度（2020年度）から支援しています。

この取組は、従前に行われていた『鳥取砂丘新発見伝事業』を継承するものであり、民間団体等が企画する鳥取砂丘の自然、歴史、文化の学習や観光新時代にふさわしいインバウンドを含む県外からの滞在型観光客を呼び込む新しい発想のイベントを毎年支援しており、ウォークラリー、撮影会、ビーチスポーツ、湖面を活用したアクティビティ、ARを用いた鳥取砂丘の月面体験、子ども向けの砂丘ガイド講座など多彩なイベントが企画され、現在は砂丘での恒例のイベントや事業として定着しています。

また、令和4年度（2022年度）からは、鳥取砂丘の4つエリアのうち2つ以上のエリアを活用し、周遊させる事業について支援を拡充しており、「砂丘を見て馬の背に行って帰る」だけではなく、鳥取砂丘をより広く楽しみ、より深く理解する機会を創出し、新たな鳥取砂丘の魅力発信へと繋がっています。



デジタルアドベンチャーラリー
（鳥取砂丘及び周辺エリア）



日本一すなば運動会
（岩戸海岸周辺）



ARを用いた鳥取砂丘の月面体験
（鳥取砂丘西側周辺）

おわりに

鳥取砂丘ランドデザインは、県民の方々の意見を取り入れ、常に見直しを行いながら進化するランドデザインと考えています。

鳥取砂丘ランドデザインの実現については、具体的な行動計画を別途策定し、鳥取砂丘未来会議で議論しながら、できるものから取り組んで進捗管理していくこととしています。



鳥取砂丘再生会議（グランドデザイン策定時）

顧問

鳥取県知事 平井 伸治
鳥取市長 竹内 功

鳥取砂丘再生会議会議員

（民間） 畦崎 俊敬
熊田 一隆
田中 慎一
西田 良平（会長）
安田 雄哉
（地元） 小谷 孝文
田崎 勝治
松永 泉
（大学） 神近 牧男
篠田 雅人
林 喜久治
松原 雄平
（行政） 佐々木 仁
杉本 邦利
瀧山 親則
法橋 誠

鳥取砂丘再生会議保全再生部会会員

（民間） 畦崎 俊敬
熊田 一隆
寺垣 啄生
塚田 比佳里
（地元） 小谷 孝文
田崎 勝治
松永 泉
（大学） 神近 牧男（部会長）
篠田 雅人
松原 雄平
（行政） 佐々木 仁
岡部 哲彦
堀部 晴彦

鳥取砂丘再生会議利活用部会会員

（民間） 畦崎 俊敬
熊田 一隆（部会長）
小谷 寛
田中 慎一
藤縄 匡伸
安田 雄哉
吉田 茅穂子
（地元） 小谷 武
林 建太
松永 泉
（行政） 岡部 哲彦
堀部 晴彦

注）平成２２年１１月１日現在

注）保全再生部会会員、利活用部会会員は再掲している。

鳥取砂丘未来会議（グランドデザイン改訂時）

顧問

鳥取県知事 平井 伸治
鳥取市長 深澤 義彦

鳥取砂丘未来会議委員

（活動団体） 柴田 杉子
田渕 直人
藤原 和輝
長谷川 浩司
大塚 尚生
川口 泰弘
岡 秀樹
（広域観光） 西垣 豪
田村 正弘
（広域経済） 横山 憲昭
池谷 勇治
（地権者） 田中 俊彦
山本 英樹
（大学） 松原 雄平（会長）
永松 大
（行政） 榎本 和久
中村 吉孝
大野 正美

グランドデザイン点検ワーキンググループ

（活動団体） 柴田 杉子
田渕 直人
長谷川 浩司
大塚 尚生
川口 泰弘
（広域観光） 西垣 豪
田村 正弘（座長）
（地権者） 田中 俊彦
山本 英樹
（大学） 永松 大
（行政） 内山 優奈
内田 浩二

注）令和8年1月16日現在

（写真提供）

TRAIL ON 小椋宣洋

株式会社 skyer

山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンター

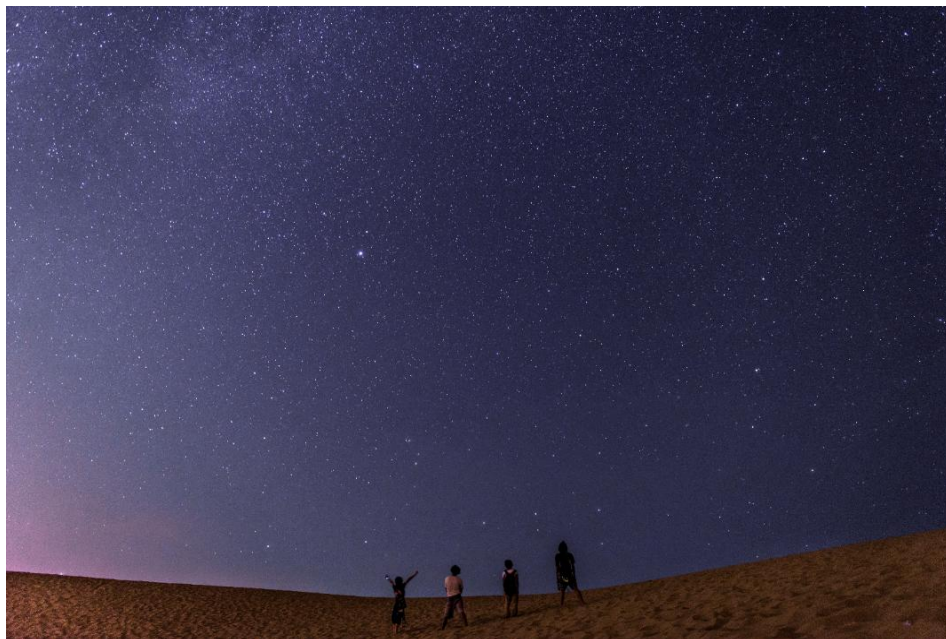
鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課

鳥取県輝く鳥取創造本部観光交流局観光戦略課

鳥取県商工労働部産業未来創造課

鳥取県農林水産部森林・林業振興局林政企画課

鳥取県生活環境部自然共生社会局自然共生課



令和8年1月16日 改訂

鳥取砂丘未来会議

〒689-0105 鳥取県鳥取市福部町湯山 2164-661

鳥取県生活環境部自然共生社会局

自然共生課（レンジャー詰所）内

電 話：0857-22-0582 ファクシミリ：0857-22-0584